

東川ウォーキング② 旭橋～柳瀬川との合流地点

2018-9-22 記 小川 雅愛

実施日時:2018年9月20日(木) 9:30～15:00

参加者:16名

配布資料:ところざわウォーキングナビ③ 東エリア

東川は三ヶ島の源流部から市内の中央部を西から東に流れ、坂の下で柳瀬川に合流する全長 12.6km の荒川水系の一級河川です。4月5日に1回目として源流から御幸町の旭橋まで約7kmのウォークを楽しみましたが、それを引継ぎ、旭橋から桜の名所として知られる川に沿った道を延々と柳瀬川との合流地点まで行き、そこを東川ウォークのゴールとする約9kmのウォークをしました。

東京都との境を貫流する所沢を代表するもう一つの河川柳瀬川に比べ、所沢の旧市街を流れる東川は町の歴史や発展との関わりをより強く感じます。また、昨年12月の出前講座「所沢の河川の利用・歴史的背景を聴く」で学んだ東川の河川管理の様子を現場で確かめる良い機会ともなりました。

■コース

3分の1はウォーキングナビの推奨コース沿い、起伏の少ない川沿いの道。ウォークの順路は旭橋ー熊野神社裏ー学校橋(梅の木)ー倉片人形店ー長栄寺閻魔堂ー所沢市立老人福祉センター・ベルクーところざわサクラタウン(KADOKAWA 建設中)ー関越自動車道下ー柳瀬川合流点です。

道は川の右岸側、左岸側と平行していることが多く、どちらを歩くか迷うことがしばしばです。

幸いなことに今日は残暑も和らぎ、曇りの天気です。時折ぱらつく小雨もすぐに止み、ウォークには最適な一日となり、バテルこともなく全員ゴールできて、達成感を味わうことができました。

川の土手にはボランティアの人が植えたと思われる今が盛りの真っ赤な彼岸花の群生に交じり、白い彼岸花やいろいろな秋の花が楽しめました。牛沼あたりを過ぎると川を挟んで、右岸から南は住宅地、左岸から北は畑地・果樹園・平地林の中に工場や住宅地がところどころに見え、川の南北が対照的な土地利用になっていて、市街がどのように拡大してきたのかなんとなくわかりました。

川は水量が少なく、護岸壁のかなり下をゆったりと流れて、下流に行くにつれてきれいな流れに変化していることが観察できました。これが台風やゲリラ集中豪雨時にはしばしば床下浸水する暴れ川になるとは信じられない思いでした。

■ウォーキングの開始から終了まで



9:30 所沢駅改札を出た突き当りにエミオ工事中の板囲いがあり、その前に通行人に迷惑のないよう集合しました。出発点の旭橋まではいつもの西友駐輪場の裏道を抜けて移動、予定時間通り 10:00 に出発しました。

◇東川地下河川第1流入立坑を見る。(西新井町付近)

平成元年以来、東川流域では豪雨や台風による都市災害ともいえる浸水被害が頻繁に発生していました。

浸水被害を軽減するため、河川改修と流域の環境整備を両立させた流入立坑3つと排水立坑1つが建設されました。前回の市街中心部の東川で見たのが、第2、第3流入立坑と思われます。

◇精華の梅（学校橋）に明治時代の名残りを想う。

（東新井町付近）。



学校橋の名の通り、明治7年に下新井小学校（後、精華学校）がこの地に開校されました。精華学校と称した時代に校門のそばにあったのがこの梅の木ですが、長い年月で枯れてしまいました。しかし、地元の人々の熱意で枯れる前に枝を使った接ぎ木をすることに成功し、精華学校の梅の木として生き続けています。

精華の梅

◇長栄寺 閻魔堂で善行を誓う。（牛沼町付近）

学校橋から川の右岸に沿った道をしばらく歩くと長栄寺に着きます。江戸中期に創建された真言宗の寺です。ここは境内の閻魔堂の高さ290cmの大閻魔像が有名、木造の閻魔像では関東地方第一と言われています。事前の下見時に頼んでいたおかげで、係の方に特別に扉を開けていただき、その恐ろしい像を十分に見ることができました。



長栄寺閻魔堂にて

◇所沢でも牛の飼育が行われていました。（牛沼町・松郷町付近）

長栄寺とすぐ隣の所沢市立老人福祉センターでトイレ休憩の後、所沢で唯一の牛の飼育場を見るため、ナビ推奨の順路でなく、川の左岸に足を踏み入れました。下見の5月は雑草はまばらでしたが、夏の間に雑草が膝の高さまで伸びていました。引返すこともできず、草を払いながら進み、やっとの思いで牛舎に近づきました。下見の時は強かった牛舎の臭気もなく、不思議に思いつつ近づく、やはり、前に見たたくさんの牛は1頭もいなくて、皆さんに申し訳ない思いでした。

この付近で東川は緩やかに蛇行していましたが水害が頻発したため、河川改修でまっすぐな川に改修工事が行われたと土地の人に聞きました。それから水害が少なくなり、川の右岸の住宅開発が進んだようです。

◇ところざわサクラタウン 建設現場を通る。(東所沢和田町付近)

2020年開場に向かって目下急ピッチで建設中。大型トラックが出入りし、多くの人が建設に従事されていて、5月には見られなかった建築の骨組みが見られました。壁の建設ネームを見ると、鹿島建設の文字が目にはいりました。ここから川沿いに歩くと東所沢駅からの道と交差する地点の新日比田橋のたもとで12時前になりました。ここで「うどん希望組」と「中華バーミヤン希望組」とに分かれ、それぞれ昼食の場所に向かいました。東所沢まででウォークを止められた2名を見送り、14名が再び13時に橋に集まり、午後のウォークを始めました。



◇柳瀬川との合流地点は？〔坂の下町付近〕

暫くは左岸側の道を進むと大きな遊水施設の建設現場が目に入りました。この水量の東川にメットライフドームの内野部分ほど大きな施設が必要なのか、不思議に思います。

そこからさらに進むとオリンピック通りに出ます。そこを左に折れ、柳瀬小学校前を右折し、学校の北側の道をひたすら歩きました。関越自動車道の下をくぐる抜けると急に下り坂になります。三富新田から続く台地の端にあたると思われます。坂の下へ向かう道路を突っ切りさらに進むと柳瀬川にかかる橋に遂に到達しました。

ここまで来ると柳瀬川の川幅は広く、一級河川の名に恥じない立派な川になります。橋の上からも東川の合流点は観察できますが、橋を渡りきった土手上に進むと、東川が柳瀬川にそそぐ様子がはっきり見られました。想像したより水量が少なく、支流が大きな川に流れ込むといった感じでした。



柳瀬川に合流する東川（建物
の手前、右から）【橋上撮影】



後方の水面が東川と柳瀬川
の合流点 【土手から撮影】

◇帰りは予定より 1 時間前（坂之下～所沢駅 バス）

道に迷わず、皆さんの健脚のおかげで、予定していた時間より 1 時間早くゴールしました。この時間帯は 1 時間に 1 回しかバスは通りません。坂の下上のバス停 2 時 25 分のバスで所沢駅に向かうことにしました。バス待ちのわずかな時間を使って、希望者だけで直ぐ近くの東光寺に行くことにしました。東光寺裏の墓地から入り、急坂の階段を下った途中が金毘羅宮でしたが、事前調査していないため、うっかり通り過ぎ、見逃してしまいました。ここに農業殖産の神、金毘羅信仰の寺社があるのは、この下流地域が古くから開け、農業が盛んであったのだらうと想像します。

バスは予定通り 3 時前には駅に到着し、バス停を降りると急に雨が本降りになりましたので、本当に幸運な体にとって負担の少ないウォークが楽しめました。

担当 Cグループ

（山本、平野、大館、関根、粕谷昇、原、佐野、小川）